

年 組 () 名前

サイン



東京都調布市の窯元「むさし野深大寺窯」で来年の干支「寅」の土鈴作りが最盛期を迎えている。作業場では、従業員が窯で焼き上げた素焼きに筆を使って、一つ一つ丁寧に絵付けしていた。写真、橋本撮影。年末まで約6000個製作し、同窯

話題に なるい話 明る鈴

や深大寺に並ぶとい う。 代表の馬場良太郎さん(47)は「今年も新型コロナウイルスで暗いニュースが多かった。来年こそは明るい年になってほしいと願いながら作っています」と話していた。



◆ 来年の干支は「寅」。それにちなんだ土鈴を作っている 作業場は大忙しです。(2021年9月25日 読売新聞朝刊より)

※先生やおうちの人といっしょに読みましょう。

【1】今年の干支は何でしょうか。右に書きましょう。

Blank box for writing the answer to question 1.

【2】あなたの干支は何ですか。右に書きましょう。

Blank box for writing the answer to question 2.

【3】次の動物のうち、干支に入っているものを○で囲みましょう。

- ・イヌ ・ネズミ ・カメ ・ツル ・タカ
・スズメ ・サル ・クジラ ・ヘビ ・ヒツジ
・ヤギ ・ウマ ・クマ ・シカ ・ネコ

【発展問題】干支は昔、何に使われていたのでしょうか。調べて裏に書きましょう。

年 組 () 名前

サイン

野菜 必要な人へ届け

農家と困窮世帯支援

長引く新型コロナウイルス禍で深刻な影響を受けている農家と生活困窮世帯の双方を応援するため、シングルマザーの支援活動などに取り組み杉並区のNPO法人「リトルワズ」が、需要の低迷で出荷できなくなった野菜を農家から買い上げて各家庭や子ども食堂に無料で届ける試みを始めた。農家おすめの調理方法などをまとめたレシピを同封する仕掛けも好評で、同NPOは取り組みを全国に広げていくという。

(神園真由美)

杉並のNPO 買い上げ、配送



八王子市の農家で箱詰めされた野菜入りの段ボール(8月)



各家庭に届けられるナスやニンジンなどの野菜

八王子市内の農家で8月、キャベツやニンジン、トマトなどが詰め込まれた段ボール箱が発送を待っていた。同NPOは、これまでに杉並区を中心とする20

か所の子ども食堂、1000以上の家庭に野菜を送っている。

小山訓久代表(44)は「新型コロナウイルスで職を失い、困窮する家庭も少なくない。新鮮な野菜で家計を助けられるだけでなく、廃棄による『食品ロス』も防ぐ一石二鳥の取り組みだ」と胸を張る。受け取った女性から「コロナ禍になってから仕事もなく、1年ぶりに野菜を食べた。子どもも『おいしい』と言ってくれてうれしかった」などと感謝の声も届いたという。

緊急事態宣言に伴う飲食店の営業自粛や学校給食の中止により、野菜を出荷する農家も苦境に立たされている。収穫した野菜を廃棄せざるを得ない事例も多いという。一方、天候不順の影響などで野菜の価格は高騰気味で、特に低所得世帯の家計を直撃している。家庭への訪問相談や子ども食堂の運営にも取り組む同NPOが、両者の窮状を知って野菜配送に乗り出した。

同NPOでは、コロナ禍で経営状況が悪化した農家などを対象とする農林水産省の補助金を活用し、農家から野菜を購入している。作ることで保管や輸送経費の削減にもつなげた。今後は農家の販路拡大にも役立てたい考えで、他自治体で同様の支援活動にあたる団体などに手法を伝えていく構想も温めているという。農家側も、野菜のイラストを添え、栄養価や調理のコツなどを手書きしたレシピを提供する。「夏野菜のキーマカレー」や「ナスのとうろろショウガ焼き」など様々なレシピの評判は上々で、農家は「食品ロスを防ぎ、社会にも貢献できてうれしい」と喜ぶ。小山代表は「野菜やレシピを受け取る人に、応援している人たちがいることも知ってもらいたい」と話している。

◆新型コロナウィルスの影響を受けた農家

と、生活が苦しくなった家庭を応援する取り組みを東京都杉並区の団体が始めました。

(2021年10月1日 読売新聞都民版より)

【1】NPO法人「リトルワズ」の取り組みによって、どのようになるから「一石二鳥」になると書かれているか、説明しましょう。

【2】農家が苦しい状況に立たされているのはなぜなのか、理由を書きましょう。

【発展問題】新型コロナウイルスは社会に様々な影響を及ぼしていますが、コロナによってどのような仕事をする人が困っているのか調べ、裏に書きましょう。

【1】真鍋さんの受賞理由を書きましょう。

温暖化予測 真鍋さんノーベル賞

◆ 地球^{おんだん}温暖化のメカニズムを解明した気候学者の真鍋^{まなべしゅくろう}淑郎さんが、今年のノーベル物理学賞に選ばれました。

二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスが増えることで気温が上昇する。今でこそ常識になっている地球温暖化の原因を明らかにしたのが真鍋さんだった。

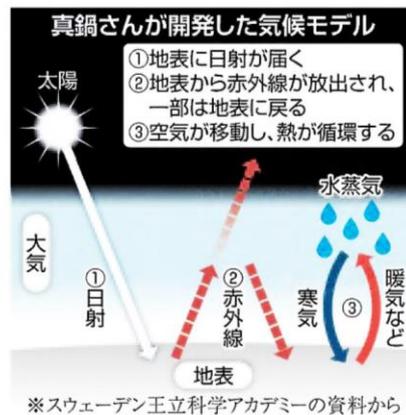
アメリカに渡って10年ほどが過ぎた1967年、猛スピードで開発が進んでいたコンピュータを駆使して膨大な気象データを解析し、大気の動きと気温の変化を調べる方法を確立。「CO₂が2倍に増えると地上の気温が2.36度上昇する」という予測結果を論文にまとめ、世界に示した。

国連の報告書に

さらに89年には、海洋の動きも加えることで、地球規模の正確な分析ができるようにした。

こうした真鍋さんの研究成果は、気候変動に関する関連

【^{はってん}発展問題】真鍋さんは、^{こく}アメリカ国籍を取っています。日本出身で、アメリカ国籍を取得した後にノーベル賞を受賞した人を調べて書きましょう。



の報告書に取り入れられた。そして、世界各国で地球温暖化を抑えるための方法を話し合ったり、国内の政策を決めたりする際の基礎資料になってきた。

真鍋さんの研究は、世界中に地球温暖化の危険性を伝え、国際社会を「脱温暖化」に向かわせるきっかけになったのだ。

「ホームランのような論文だった」。真鍋さんは、「原点」となった1967年の研究成果をこう振り返っている。



ノーベル物理学賞の受賞が決まり、喜びを語る真鍋さん（5日、アメリカ・ニュージャージー州の自宅）

好奇心を持ち60年夢中でやってきた

受賞決定の電話に「本当ですか。信じられない」と答えました。宇宙や素粒子分野の受賞者は多いが、気候学者が選ばれるなど聞いたことがありません。広い分野の研究者が対象になるのは素晴らしいことです。

（今回の受賞決定は）気候変動の問題がかつてないほど大きくなってきたことが背景にあります。世界で大洪水や干ばつ、火事、熱波が問題に。日本でも大雨や強い台風による被害が毎年のように起きています。気候変動が大変なことだと多くの人が気づきました。

（気候分野の研究者としての信念は）外に出て気候がどうなっているかを肌で感じること。以前は自分も地球温暖化の問題がこんなに大きくなるとは夢にも思っていませんでした。好奇心を持ち、60年夢中になってやってきました。（日本の若手研究者は）自分が好奇心を持つような研究をやることが大切です。

（2021年10月8日 読売中高生新聞より）

蚊の駆除へ 米で遺伝子改変

★★★★

サイン

年 組 () 名前



実験は5月、同州南端のキーズ諸島で始まり、オスの蚊の卵が大量に入った箱が設置された。卵は英バイオ企業オキシテック社が遺伝子改変しており、オスと野生のメスが交配して生まれた子供のうち、メスは人工合成した「致死遺伝子」が働いて幼虫のうちに死ぬ。オスは成虫になり、次世代に致死遺伝子が引き継がれるため、メスが増えずに蚊の数が減り続ける。同社がブラジルで行った実験では最大95%の蚊を減らすこと

フロリダ州キーズ諸島

に成功したという。ネットインシマカは、デング熱やジカ熱など重い感染症のウイルスを媒介する。実験は蚊の対策を担う島の行政局が同社に依頼し、米環境保護局(EPA)と州が昨年承認した。遺伝子改変生物の野外放出は日本など各国が参加する枠組み(カルタヘナ議定書)に基づき規制されているが、米国は参加していない。キーズ諸島で昨年確認されたデング熱患者は70人。地元当局は「環境への負担が大きい殺虫

蚊の駆除目的に 米で遺伝子改変

米フロリダ州のリゾート地で、遺伝子改変した蚊2000万匹を野外に放つ実験が進んでいる。感染症を媒介するネットインシマカの駆除が目的で米国初の試みだが、地元では人や環境への影響を懸念する声も上がっている。(米フロリダ州キーズ諸島、船越翔)

剤を使わず島から駆除できる」と説明する。島は観光が主力産業で、マイナスイメージの定着を避けたい事情もある。殺虫剤に耐性のある蚊も現れており、地元の獣医師、ダグラス・メーダーさん(63)は「駆除は急務だ」と実験を支持。遺伝子改変生物の問題に詳しいカリフォルニア大アーバイン校のアソニー・ジェームズ教授も「厳格な安全試験を経ており、人や環境への影響はないだろう」とみる。だが地元住民のメーガン・ハルさん(50)は「健康や生態系への長期的な影響は不明だ」と訴え、定期的に抗議集会を開く。米国内の複数の環境保護団体も反対を表明。米メディアは「地域の分断を引き起こしている」と報じている。

◆日本でも夏から秋にかけて発生し、人を刺す蚊。この虫の駆除を巡り、米国で賛否両論が巻き起こっています。

(2021年9月4日 読売新聞夕刊より)

【1】 キーズ諸島にいる蚊を減らすことで、島の生活にはどのような効果が期待できますか。次の三つに分けて、書きましょう。

【人の健康】	【島の産業】	【島の環境】
--------	--------	--------

【2】 住民からは実験を進めることに反対の声も出ています。その理由を書きましょう。

【発展問題】 技術が進んで便利になったことで、身近な自然や生き物などに影響が出ていることを調べ、裏に書きましょう。

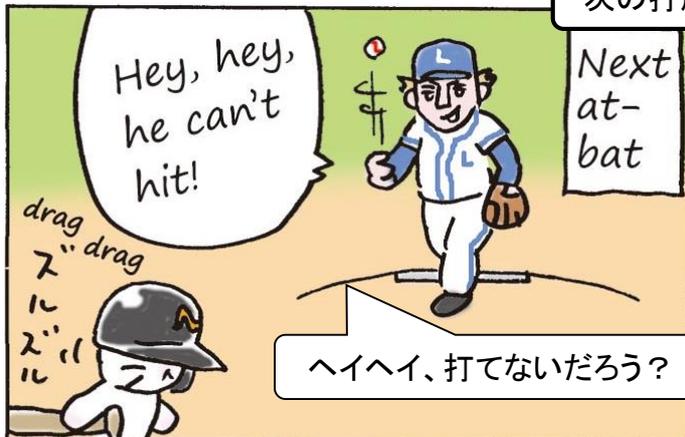


年 組 () 名前

サイン



次の打席



無視



◆ ^{あいてとうしゅ}相手投手の挑発に ^{ちようはつ}乗りやすい ^のミー太郎。
^{つぎ}次の打席は、^{なに}何を考えたか、^{ちようはつ}挑発を ^{むし}無視して打席に立ちました。

ゲット ア ライズ アウト オブ
get a rise out of

(からかって)怒らせる

「of」の後ろに人を入れて、「からかって怒らせる、挑発する」という意味になります。

★あわせて覚えよう★

ゲット アンダー ワンズ スキン
 ▪ get under one's skin

(oneを)イライラさせる

ドライブ ワン アップ ザ ウォール
 ▪ drive one up the wall

(oneを)うんざりさせる

※oneには人が入ります

単語帳

upset: 動揺する、ignore: 無視

★なぞってみよう★

get a rise out of

get under one's skin

読売新聞特別版「正倉院宝物を学ぼう！」を進呈します

「第73回正倉院展」(10月30日～11月15日、主催：奈良国立博物館、特別協力：読売新聞社)の展示宝物などを紹介する特別版「正倉院宝物を学ぼう！」(タブロイド判・オールカラー4ページ)を、学習教材としてご活用いただける学校に無料で差し上げます。

(写真は今年の紙面)

「宝物を1200年も守ってきた正倉院ってどんな建物?」、「どんな宝物が保管されているの?」など、皆さんが知りたいことを多彩な写真やイラストでわかりやすく説明します。

正倉院宝物を代表する楽器の一つ「螺鈿紫檀阮咸(らでんしたんのげんかん)」や、光明皇后が自ら筆をとって写し、東大寺に献納した書物「杜家立成(とかりっせい)」など、今年の展示宝物を、読売新聞日曜版の人気連載漫画「猫ピッチャー」の主人公、ミー太郎と一緒に学べる内容です。



特別版の申し込みは **11月1日(月)までに**、以下の申込用紙に必要事項を記入し、ファクスで送信してください。(お届けできるのは10月14日以降の予定です)

<お問い合わせ>

読売新聞大阪本社 広報宣伝部(担当:佐藤) 電話 06-6366-1530

(ファクスの場合は、切り取らず、この用紙のままお送りください)

FAX 06-6366-1928

11月1日必着

読売新聞大阪本社 広報宣伝部 宛

特別版「正倉院宝物を学ぼう！」を申し込みます。

学校名	
学校住所	〒
電話番号	() -
担当教諭名	
希望部数	部